



### 第3章 実践授業を通して

#### 第1節 小学校第3学年 算数科

単元『三角形をしらべよう』で、実践授業を行った。本節では、ICT活用で支援を行うことが最適であると判断し、実践を行った二つの学習活動を取り上げ、ICT活用の効果を子どもの姿を基に述べる。

一点目の授業場面では、ICTを活用して「注目させる」場面を設定した。教師が図1のように拡大提示されたものを指し示しながら発問・

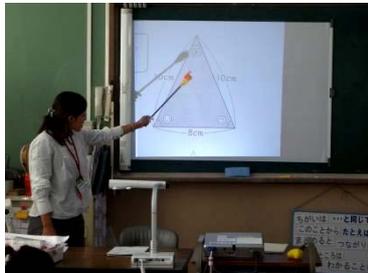


図1 指し示しながら発問する教師

指示・説明することで、子どもの視線をスクリーンに集めることができた。そのことが、子どもの学習課題の確実な把握につながり、意欲的に活動に取り組もうとする姿が見られた。

また、二点目の授業場面では、ICTを活用し「伝える」場面を設定した。子どもが、自分の考えの基になったものを拡大提示しながら発言することで、積極的に考えを伝えようとする姿が見られた。

#### 第2節 小学校第6学年 国語科

単元「読書の世界を深めよう」で実践授業を行った。

一点目の実践では、ICTを活用して「伝え合う」場面を設定した。話し手の子どもは、拡大提示された読書ノートを指し示したり、線や印をつけたりしてわか



図2 指し示しながら話す子ども

りやすく伝えることができた。また、発表内容に関することを視覚化することで、聞き手の子どもたちは、スクリーンに着目して聞くことができ、提示された情報を参考にして自分のノートに書き込もうとする姿が見られた。

二点目の実践では「注目させる」場面を設定した。図書室の平面図を自作コンテンツで作成し、それを基に本の分類を確認した。アニメーション効果を設定することにより、本の分類名を子どもの発言とともに一つずつ注目させることができた。

### 第4章 実践を終えて

#### 第1節 研究の成果と課題

授業設計案を作成することで、ICT活用の目的、ICT機器の特性、ICT活用とその他の指導・支援との関係を明確にして授業を計画し、実施することができた。授業を行った教師からは「ICTを活用することに対する抵抗感がなくなり、ICT機器は教室になくてもならないものになった。」という声を聞くことができた。

また、学習意欲を向上させるICT活用例として提示した「注目させる」「理解させる」「伝える」「伝え合う」の四つの場面を意識して授業設計し、実践を行うことで、子どもの学習意欲が向上する姿が見られた。



図3 ICTを授業に盛り込んで行く視点

ICTを授業で効果的に活用するには、教師が子どもの実態に合わせて、意図をもって活用する必要がある。そこで、ICTを授業に盛り込むに当たり、指導案にICT活用の項目を設け、活用の目的と支援の内容を具体的に明記することにした。

#### 第2節 ICT活用のさらなる充実をめざして

ICT活用のさらなる充実を図る上で「活動と交流の一体化」がキーワードになると考える。それは、子どもが、自分の考えを視覚化することにより、効果的に伝える場面を拡充させることにつながると考えるからである。また、考えを伝える場面を想定することで、人に伝えることを意識して自分の考えを再構成したり、端的にまとめたりするような姿につながるのではないかと考えられる。今後、電子黒板など様々なICT機器が導入されるが、子どもの言語活動を充実させる活用の視点がICT活用の要になると考える。